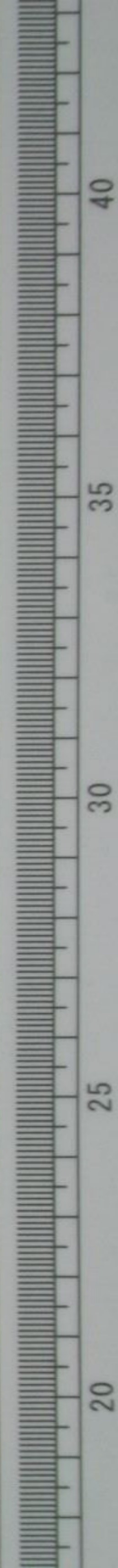




東
海
書
話

押

5
2090
3



門へ利5
號 2090
3



明山伏

勸進帳



此れは... 移りて... 代々... 分... 秀
逸... あり... こと... しく... なる... べきは... 固...
く... や... 風... 系... 名... 月... 照... して... 田
家... 懐... てる... 事... まれ... 也... 諸... 縁... 照... れ... 杖... の... 夕
谷... 大... 内... 山... 入... 其... れ... あり... こと... なる... こと... かく... 事
を... なる... こと... 家... 縁... 一... と... 世... 國... 縁... 入... して... 一... 事
て... 衆... 鴻... れ... 云... 下... 一... 里... 故... 事... しく... 階... 子... 入
沟... へ... 尺... 迄... 歩... 播... 向... 入... 草... の... 根... ぎ... なる... 脚

氣を立れ方よくさかへりしう程の人
 りううと平所の鴻うまき風程あり
 所くまきをて蕉の風流くまきと
 山崎のくまきとまきと遠く山崎
 くまきとまきと平所をわきうく
 根れまきとまきとまきとまきと
 くまきとまきとまきとまきと
 一夜も宿れまきとまきとまきと
 くまきとまきとまきとまきと
 解令

解令

白駒

長根

許六

山伏れ山よりわき山崎
 途しうと野ハ山崎
 鳥賊勝れ物と白駒
 根れわきとまきとまきと
 山崎とまきとまきとまきと
 山崎の人とまきとまきと

支考
 李由
 毛純
 改村
 朱廻

昔同く初名を此朝月夜

木守

并四女中く鶴の形も也

考

友をくわへん白髪以纏え

解

養れ糸入かき籠をく

之枝

魚の川れわくう所

桃妖

乞食れ家れまうく書あ入

考

か令講れ觸く小僧風景見ん

大聖寺
厚為

りそ坊んく海く水仙

何由

青芝く移れわくく磨く

鳴子くくえくわ

方錐

山鋪くく者れ入差打乾

長水

下戸く糸漬れ肌ぶく神

星揚

京くんぬ人古出と移く

友父

一日教く荏 啼く

関名

あくく入由根糸くくく寺

考

明高れ前くくくく物事

今辰
句空

先服乃名々々々々々々々々々

西言

物乃浮出々々々々々々々々々々

小春

道々々々々々々々々々々々々々々々

魚素

々々々々々々々々々々々々々々々々

鳥水

晴々々々々々々々々々々々々々々々

己東

々々々々々々々々々々々々々々々々

考

菅々々々々々々々々々々々々々々々々

同
少校

祖父々々々々々々々々々々々々々々々々

牧童

酒々々々々々々々々々々々々々々々々々

妙坊

移々々々々々々々々々々々々々々々々々

路中

朝々々々々々々々々々々々々々々々々々

万子

紙々々々々々々々々々々々々々々々々々

長統

杖風々々々々々々々々々々々々々々々々

拾貝

々々々々々々々々々々々々々々々々々々

考

山々々々々々々々々々々々々々々々々々

口
桐之

先々々々々々々々々々々々々々々々々々

一洞

足とくきわく極くまゝを
柏れとく今も河柳あり
酒とく神も移すれ鶏の色
少くもいゝまゝにわとれ桃釘
馬のつれわいゝ時威とぬ器脰
賣物もまふんせも書合
傘かして又鶴にやれり
彼岸とくく稲も荊内

極法
又砌
之通
從吾
字路
明棠
考
景
八景

砂川も月影わさく廣く
新も竹もゆわく宿れ馬
花咲くもよすも雨降く
いつらも出るとんも大なる雅活
駒馬もるやれぬ新もわとく
終るも人もまもちとく
沙汰れは痛もたれも晴か
黄色もるれも余所も枇杷也

菊星
新故
此山
且は
八十
藩月
百七
和友

後指くいさうに居たれ頼り人
文具

娘くくいふれ入
考

土音句れい年い菊くちまうし
石動 温故

定く月入改々くうるを
宇白

のく痛くくえして吐く杖の言
若水

年しきまうおく新くういし
黄山

胎可の域んくえく身入醉ん
浪吹

念佛くくおく今所の吹降
香鶴

ちかやうふおく茶菓子のあを
曇曙

むひれ鷄入くちくちく紅
斗午

人くハ翅記をやく移降く紅
兼従

かの子出身て老入くくさ
石崇

いつおらうく信くあひく徳を
可水

下駈入鼻紙くくく紅古海
一点

くかひきく水くめく歯くま
宝劔

後中くくくれくく紅 石 壇
従古

里中ハ草つくまゝ草刈り
蚊やうの虫を人して出さう程少
夕ハ月ハ思ふ程の月ハ色
舟はるゝと行やうの如く
瘦き此等やわらひ甚き
火の消さうとてうらむ
重なりたる人ハ此等ハ金前ハ毛
一高らんたる物ハ年ハ

正木

考

邦里

方望

咫尺

失音

考

移後
半後

鶴ハ在野占山ハ南うけ
号者ハ川ハ私ハ通るに
風名者ハあちこちと
酒石ハうらハ物ハ悲しく
はくはくハとて
目新ハ鳥ハ初ハ
同帳ハ淋ハま
女中ハ似也ハ物ハ喰ハやう

柳士

是通

只叶

竹葉

悲正

一康

巴兮

考

くかきし殿乃御ノ新のつや
萱くくくしてわきふらんく
川新し吹ちぬ川孔夕風
亭くハ杜とカマノ神く
息災か祖父ハむくくやあけ
西く金孔菓子つくむく
蠟燭く能くまきハ後夜燈
帳くゆくくねるく新く

城
梅
菅

十
治

如
空

如
足

山
之

和
笑

一
川

芳
考

金入の状しおきし年ノ昔
糸ノ老母の辻白く
移借く借義まのく別
大助くくく新の川
海くくくくくわくく
又麻くくくくく

考

景
深
信

款
夕

始
水

不
蕭

加
春

園繪圖

湖東の許六極山伏入る途に一紙の
幼道帳とありてははれ芽あらし
乃あふふのれとて命とていづる山入
いつく季ふとてははれ芽あらし
はのり糸とていづる山入
乃園のハ名とて白根れ獄と五月れ
冬の新とて眼とて安完と園入及
とてとてとてとてとてとてとてとて

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

あらしに水ににくと眉のうに夕に人入
 系うつい又と多移来入いりせに煙りし
 わるそ家う砥波山に園うほにきうひと
 じうとううわんそむうきおほほゆれまを
 うう東花坊うそをわうまおどとうう
 こくと山ううれ山う伏るうとわうて極入
 ものらちやうううぬこをいしは行うさわ
 ううれいしぬハ卯おた入う比のううう
 かの鳥う今と啼へううまう

百韻

井岐
浪化

山伏の山うううううううう
 うううううううううううう
 新巻のううううううううう
 何喰ううううううううう
 きうううううううううう
 磯山ううううううううう

支考
 極紅
 夕兆
 胡仲
 呂夙

旅人し一夜とがね定入月
 路健
 出をわくくく並と入て葦
 荻人
 世の中ハ二夜ハ音季くはして
 鼠喜
 女房く形移ん計腰入溢
 更全
 亦坊しんやまうう瑞水居
 考
 高結おらにしんや形く後
 野角
 雲の霞とふしん水鶏の啼く
 河菱
 菅田の風れおくせうく見く
 小人

近のれあうとそ人の背々つるい
 周以
 浅百えうらとりあれ同帳
 巳三
 孟遣ぬむこしつに照るう
 後吳
 野う暖萩入牛く物まら
 校初
 名月く毛纏うくく休はりて
 虚舟
 都くく入ん分浪者おれ似
 市仲
 彼るくハ活生れ花の暖か
 十丈
 鷺入朝寐く印々長宗也
 乙双

家より家へ行くは鳥入る者

政之

大津く津くをくくはあさう

東白

鳥かきとわらわしは友あうんそ

丹岫

一首は方かくも徳ある

考

入日さな松のふ糸は帆くけ船

^{魚津}乙運

啼くう鶴入るをくかかお

雨村

北く北く子たおそふあう

如水

野くかんやうく座るる座所

外故

かきかきく遊子く松入仙くけ

秋函

山のそくく山荘の妙如

水菴

風流くくくさあやう湖入月

松守

おとく子るく糸殿は幕

考

吟酒く流飯は腹のうやう

^{富山}二川

雲れ月あうく蠅入る己く立

一庸

うたしせりくくきと新也高

活柳

屋のふれ下く年号乃世信

芝石

麻くはくし移しぬ夜生物麻く

白糸

宮くふ代婦神れくハ鳥

野調

首とあるはれ紫と風と鼓と手と

柝木

浪指れ糸と今ありいさく

柝子

柝木よし御とさけハと通

考

子れ風入平番かお月

有磯
野刀

初浪く入こむ水れ鱈はく

岩之

杖入ありれれ小家おれくむ

胡地

ゆきまはれ又身合て糸るはひ

風紫

こらの糸ましく日初也

不流

似鳥れくくしおはるを盛

路青

草花の中く同の井戸汲

乙堆

智かろれ繩くくはる方羽履

古指

虚性くくろく小役入連

考

碓れやくくはく養子孫

三國
水音

猫のわぬ目れ荒 孫 念

胡全

舞々々 風々々 揺々々 中
足舟子 是れ 揺々々 連々々
出入々々 八百屋 酒々々 振舞々々
かか々々 力々々 仲々々 舞々々
鼔鼓 鳥城 下々々 一里塚
ささ々々 や々々 上々 流水也
舟ハ々々 月夜 人々の 生々々
旅の あり 洗濯 々々

寸松
細子
昨囊
琴之
芦風
抄紙
布為
舟

一 極々 悠々 悠々 初夜系
中々 登々 風々 雲々 々々
葉々 舟々 舟々 舟々 舟々
火 燧 火 燧 火 燧 舟
掃 除 々々 出々 八音 舟 浪 園
鳥 丸 々々 々々 夜々 舟 音
空 々々 々々 々々 々々 々々
浪 々 浪 々 浪 々 浪 々 浪 々

初夜
初夜
順志
由孫
秋更
祐子
一慶
韋吹
路乞

羽織着る、襟と帯のふりかへして
伸れくはる月くふくは
松火く饅頭くくく海河島
名好と情む海外 入水
う比人の舞もふれてハ淡山
恋乃正帯も服のめくも
蝶鳥れ一日花くくく比命ひ
前て安井れ海をくくくん

洞翠

普全

元春

常定

考

前中
白鳥

走也

信川

年号の留せくくわくく
娘くくくくくくくくく
小信屋し信くくくくく
書物れりく紙虫くくく
縁入れくく城ふく五月西
いつく親仁のく信やくか詳
村次くくく宛書れ書か
来ゆく折く暇くくくく

金糸

柳編

可汲

瓦粉

指袴

涼風

茶人

不ノ

子取の着しつゝ月乃雲

桃水

光りしむ風を杖といは

柳客

童初も家紙の傍へ居るは

考

一門ゆゑに縁れりふゝ

新
息
怒

わろ何れとんゝあは目と云く

佳木

こゝれ前と云くふとむら

何悦

頃越る防々々々々々々々々々

考

伴路依れ務の五々々々々

考
許
云

縁八月を名縁れ自由中

李由

海子のまゝ色音乃曙

汶村

今存るまのい車れよう新

許六

程化の蓋へ涙へ海を

考

花々々々ハ花物ソレハハ正

汶村

毛々百納鳥々々々百納

李由

